安 全 デ ー タ シ ー ト

プロピレングリコール

飼料品質改善協議会
プレミックス研究会
連絡先 ： 巻末のプレミックス研究会会員一覧を参照のこと。
作成年月日:2024 年 12 月 1 日

1. 化学品名及び会社情報

化学品の名称	プロピレングリコール
供給者の会社名称	ロック化学製品株式会社
住所及び電話番号	東京都目黒区碑文谷五丁目 29 番 10 号 TEL:03-5731-9569
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	分類できない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	分類できない
	高圧ガス	分類できない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない

	鈍性化爆発物	分類できない
健康有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1(中枢神経系, 血液系) 区分 3 麻酔作用
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1 (中枢神経系, 呼吸器系)
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性　長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示または
シンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報　眠気又はめまいのおそれ
臓器の障害：中枢神経系，血液系
長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害：
中枢神経系，呼吸器系

注意書き	【安全対策】 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。 この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。 室外もしくはよく換気された場所でのみ使用すること。 【応急措置】 ばく露した場合、医師に連絡してください。 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。 【保管】 施錠して保管すること。 容器をしっかり閉め、よく換気された場所で保管。 【廃棄】 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	プロピレングリコール
慣用名又は別名	1,2-プロパンジオール
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No.57-55-6
成分及び濃度又は濃度範囲	97.5%以上
官報公示整理番号	(2)-234（化審法、安衛法）

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	すぐに石鹸と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、数分間気を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

飲み込んだ場合	口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な微候症状	眠気又はめまいのおそれ

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水スプレー(水噴霧), 二酸化炭素(CO2), 泡, 粉末消火剤, 砂
使ってはならない消火剤	なし
特有の危険有害性	熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。
特有の消火方法	危険を避けられれば、燃焼源の供給を停止する。 移動可能な容器は、安全に行える限り火災場所から搬出す。 移動が不可能な場合には、容器また周囲散水し冷却する。 安全な距離から散水し容器を冷却周囲の設備を保護する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる
環境に対する注意事項	漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する
封じ込め及び浄化の方法及び機材	乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。
二次災害の防止策	環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。
安全取扱注意事項	静電気放電(有機物の蒸気を引火させうる)を避けるために必要な措置をとる。個人用保護具を着用すること。皮膚、眼、衣服との接触を避ける
接触回避	強酸化剤。 有機過酸化物。 過酸化性物質。詳細については SDS 第 10 項を参照。

保管

安全な保管条件	直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。
安全な容器包装材料	ガラス, 鉄

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）	この供給された製品は地域の特定取締機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物を含有していない。
設備対策	屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

保護具

呼吸用保護具	保護マスク
手の保護具	化学防護手袋（ JIS T 8116 ）
眼の保護具	側板付き保護眼鏡(必要により ゴーグル型または全面保護眼鏡)(JIS T 8147)
皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色
臭い	無臭
融点／凝固点	-59 °C

沸点又は初留点及び沸点範囲	189 °C
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	上限： 12.6% 下限： 2.6%
引火点	98 °C
自然発火点	371℃
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水 , エタノール：極めて溶けやすい。
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	データなし
蒸気圧	106.6Pa
密度及び／又は相対密度	1.033-1.039 g/mL
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	常温常圧で安定。
危険有害反応可能性	通常の処理ではなし。
避けるべき条件	高温と直射日光, 熱、炎、火花, 静電気、スパーク, 湿気
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性

経口	LD50：22,000mg/kg(Rat) 【分類根拠】 NITE の GHS 分類に基づく。
経皮	LD50：20,800mg/kg(Rabbit) 【分類根拠】 NITE の GHS 分類に基づく。
吸入：ガス	データ不足のため分類できない
吸入：蒸気	データ不足のため分類できない
吸入（粉じん・ミスト）	データ不足のため分類できない

皮膚腐食性／刺激性	刺激性なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	刺激性はない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。 皮膚感作性 陰性
生殖細胞変異原性	生殖細胞変異原性:in vitro 染色体異常 OECD473 結果: 陰性 生殖細胞変異原性:エームス試験 OECD 471 結果: 陰性
発がん性	日本産業衛生学会、ACGIH、NTP、IARC のいずれも記載なし
生殖毒性	データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	臓器（中枢神経系，血液）の障害（区分 1） 眠気又はめまいのおそれ（区分 3）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（中枢神経系，呼吸）の障害 （区分 1）
誤えん有害性	データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（ミジンコ：ダフニア マグナ）の 48 時間後 EC50 = 10.000mg/L 魚類(ファットヘッドミノー)の 96 時間後 LC50＝710 mg/l,
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし

残留性・分解性	易分解性 BOD 1.08g/g, COD(Cr) 1.68g/g, COD(Mn) 0.72g/g
生態蓄積性	log Pow0.92 - 1.32
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物），当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で，かつ，環境上望ましい廃棄，又はリサイクルに関する情報	残余廃棄物：廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 汚染容器及び包装：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
品名（国連輸送名）	非該当
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	非該当
容器等級	非該当
海洋汚染物質	非該当
国内規制がある場合の規制情報	国内輸送については１５項の規制に従うこと。消防法、労働安全衛生毒劇物に該当する場合はそれぞれの該当法律に定められた運送方に従うこと。航空法の定めるところに従うこと。 船舶安全法に定めるところに従うこと
輸送又は手段に関する特別の安全対策	取り扱いの前に安全指示、SDS および応急処置法を読むこと。運搬に際しては、容器を４０℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

消防法	危険物第四類 第三石油類 危険等級Ⅲ 水溶性
労働安全衛生法	令和 7 年 4 月 1 日からの施行（義務適用）予定

	名称等を表示するべき危険有害物
	名称等を通知するべき危険有害物
化審法	優先評価化学物質(法第２条第５項)
海洋汚染防止法	施行令別表第１ 有害液体物質 Z 類物質
16. その他の情報	この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にして、飼料品質改善協議会 プレミックス研究会が作成したものです。全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

＜引用文献＞

- NITE: 独立行政法人　製品評価技術基盤機構
- https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop
- IATA 危険物規則書
- RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
- 中央労働災害防止協会 GHS モデル SDS 情報
- 有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会講談社サイエンティフィック
- 化学大辞典共立出版
- ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices
- HSDB® - Hazardous Substances Data Bank
- National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens
- IARC 発がん性評価モノグラフ
- 日本化学工業協会　GHS 対応ガイドラン、2019 年 6 月
- 日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告
- JIS Z 7252：2019 GHS に基づく化学品の分類方法
- JIS Z 7253：2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場内の表示および安全データシート
- PPG（ポリオール）輸送管理指針(ウレタン原料工業会)

＜改訂履歴＞

版	日付	内容
初版	2024 年 12 月 1 日	—